

令和8年度

学校自己評価表（計画）

学校運営計画		
学校運営方針	○ 人間であることの自覚をもとに、いつも明るく希望をもって、積極的に自己の運命をきり開いていく、心身ともに健康な人間を育成する。 (1) 生徒の充実感と保護者の満足が得られる学校 ○ 規範意識と他者を思いやる心を育成し、生徒が安全安心に過ごせる学校 ○ 確かな学力の育成と3年間の計画的、継続的な指導で進路実現を図る学校 (2) 全日制単位制の特長を生かした教育を推進する学校 ○ 多様な科目選択により、得意分野の伸長や希望進路を実現できる学校 ○ 自分の将来について考え、決断し、実行する力を育む学校	
三つの方針(スクール・ポリシー)		
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自ら学び、自ら考え、主体的に物事に取り組む力を育成します。 ②様々な人とコミュニケーションを図り、自他を理解・尊重する心を育成します。 ③自己の進路希望を実現できる確かな学力と豊かな人間性を育み、社会に貢献できる力を育成します。	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な選択科目を設定し、得意分野の力を伸ばし、主体的に学ぶ意欲を高める授業を展開します。 ②積極的なICTの活用や探究的な学びをとおして、思考力、自己表現力、発想力を育む授業を展開します。 ③学校行事、部活動、生徒会活動や外部と連携した学習活動をとおして、自己や他者を理解したり、社会的な課題や問題を知る機会を充実させたりします。	
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	～このような生徒を求めています～ ①将来の目標に向かって自ら進んで学び、努力を継続できる生徒。 ②規範意識をもち、異なる考え方も尊重でき、困難を自ら解決しようとする生徒。 ③部活動、学校行事等に積極的に参加し、自分の特長を伸長できる生徒。	
昨年度の成果と課題	今年度の重点目標	具体的目標
昨年度の成果と実績は以下のとおりである ()は前年度 ・高校生活満足度調査 1年 86.4%(81.4%) 2年 75.0%(75.6%) ・入学者一般選抜倍率 1.14倍(1.17倍) ・中途退学者(率) 0名【0.0%】 (2名【0.3%】) ・転学者数(率) 16名【2.7%】 (15名【2.6%】)	1 授業改善と学習保障	ア 生徒が自ら考え、主体的に取り組む力を育成するための授業改善 イ 生徒を理解し、わかりやすい授業を行う ウ 不登校傾向にある生徒等への学習保障
	2 教職員全員で、安心・安全で信頼される学校づくり	ア いじめを許さない、見逃さない学校体制 イ 人権に配慮した言動で対応し、「かかわる同和教育」を推進する ウ 学校生活の中で、礼儀と秩序を重んじ、社会性を育てる
	3 教職員の多忙化解消	ア 業務の平準化を図るとともに、業務分担を明確にする イ ペーパーレス化等による会議の簡素化を図る ウ 「新潟県部活動の在り方に係る方針」を遵守し、部活動指導の適正化を図る

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
1 授業改善と 学習保障	ア 生徒が自ら考え、主体的に取り組み力を育成するための授業改善	学習の指針を示すため、適切な年間指導計画（シラバス）を作成し計画的でわかりやすい授業を実践する。（教務部）	
		生徒一人一人が他の生徒の視点を取り入れた協働的な学びの授業づくりに向けて、教員相互の授業公開を行い、より分かる授業につなげる。（教務部、年次）	
		生徒による授業評価を実施し、授業改善に生かす（教務部）	
		発達段階に応じた題材設定やICTの活用により、生徒の興味関心を引き出しわかりやすい授業と基礎基本の定着を図る。（教務部）	
	イ 生徒を理解し、わかりやすい授業を行う	学習の進度と習熟に合わせながら、適切な課題等を通して、学習習慣を身に付けさせる。（進路指導部、年次）	
		90%以上の教員が、授業等において、生徒が情報収集や資料作成など目的に応じてICTを活用するよう指導ができる。（教務部）	
		ICTを活用する授業が、学習意欲の向上につながっていると捉える生徒を80%以上にする。（教務部）	
ウ 不登校傾向にある生徒等への学習保障	教育的支援を必要とする生徒に対して、全職員が早急に最善の方法で対処できるよう、教員研修会等により指導力を高める。（特別支援教育委員会）		
	特別支援コーディネーターや不登校担当教員を中心とした教員間の情報共有により、悩みを抱えた生徒に家庭と連携したサポートを着実にを行う。（特別支援教育委員会）		
2 教職員全員で、安心・安全で信頼される学校づくり	ア いじめを許さない、見逃さない学校体制	生徒が安心して学校生活を送れるよう、いじめの未然防止と発見した際の迅速な対応を目的とした教職員の校内研修を実施する。（生徒指導部、いじめ対策委員会）	
		いじめ防止プログラムを充実させ、いじめは人権侵害であることを理解させる。定期的なアンケートを実施し、いじめの未然防止、早期発見に努める。（いじめ対策委員会）	
		いじめ防止推進教員を中心に、いじめの早期発見、いじめ認知の場合の教職員の速やかな情報共有を通して、組織的に対応する。（いじめ対策委員会）	
	イ 人権に配慮した言動で対応し、「かかわる同和教育」を推進する	年次別の学習により、差別の歴史、実態を学び、差別をなくすためにすべきことを考えさせる。（人権教育、同和教育委員会）	
		生徒、教職員、保護者を対象にした人権教育、同和教育講演会を実施し、包括的に人権教育、同和教育に取り組む。（人権教育、同和教育委員会）	
		職員研修会を通して、教職員の人権意識を高める。（人権教育、同和教育委員会）	

	ウ 学校生活の中で、礼儀と秩序を重んじ、社会性を育てる	清掃や保健指導を通して、規律ある学校生活が過ごせるよう支援する。（生徒指導部）		
		公共交通機関の利用マナーの指導、自転車運転ルールの遵守指導を行い、生徒の規範意識を高める。（生徒指導部）		
		スマートフォン等、電子機器の使用ルールを徹底する。（生徒指導部）		
		「総合的な探究の時間」の取組を通して、自己や社会に対する理解を深く考える姿勢を養い、キャリア教育の充実を図り、進路意識高揚に結びつける。（探究教育推進委員会、年次）		
3 教職員の多忙化解消	ア 業務の平準化を図るとともに、業務分担を明確にする	学校行事を精選するなどし、校務の効率化を進める。各分掌が組織として動けるようにし、業務の分担化を図る。（校務運営委員会）		
		定時退庁日や学校閉庁日の設定等を通して、教職員の勤務時間の適正化を進める。（校務運営委員会、安全衛生委員会）		
		学校管理医と連携しながら、職場環境のさらなる改善に努める。（安全衛生委員会）		
	イ ペーパーレス化等による会議の簡素化を図る	統合型校務支援システム等を有効活用し、業務の軽減や効率化を図る。（教育情報部）		
		職員会議や各種会議等をペーパーレス化し、会議の簡素化を図る。（教務部）		
	ウ 「新潟県部活動の在り方に係る方針」を遵守し、部活動指導の適正化を図る	生徒の休養、職員の働き方改革の両観点から、参加大会等の精選や活動時間の調整、活動内容の工夫に努める。（生徒会指導部）		
		部活動の年間活動計画に即し、心身の成長に適するバランスのとれた活動を推進する。（生徒会指導部）		
		本校の「部活動における活動方針」に基づき、部活動指導の適正化を図る。（生徒会指導部）		
	成果			